

第2回八代市文化ホール等あり方検討会 会議録

開催日時	令和2年9月30日(水) 14:00~16:00
開催場所	鏡文化センター会議室

■出席委員

会長	本田 恵介	委員	岩崎 布見子	委員	多田 満
副会長	丁畑 幸美	委員	柏 昭子	委員	森山 学
委員	中山 英朗	委員	川村 健治	委員	水本 和人

■欠席委員

委員	石本 愛
----	------

■市出席者

職	氏名	職	氏名
経済文化交流部次長	一村 勲	厚生会館館長	林田 安夫
文化振興課長	鋤田 敦信	厚生会館主査	坂梨 英司
文化振興課長補佐	下津 恵美	総合支援担当主査	坂本 友和

■その他の出席 なし

■傍聴者 なし

■協議事項

<p>審議事項</p> <p>(1) 前回協議項目の確認と今後のスケジュール</p> <p>(2) 市民アンケートの報告</p> <p>(3) ホールを活用した市民の文化意識向上・定着に向けた本市の運営方針と取り組み</p> <p>(4) 施設稼働率および収益を上げるための取り組み</p> <p>(5) 他の自治体での取り組みから見えるもの</p> <p>その他</p> <p>(1) 第3回検討会の日程について</p> <p>鏡文化センター現場視察</p>
--

■会議録(要約)

【はじめに】

- ①会長挨拶
- ②前回欠席委員の自己紹介(水本委員、中山委員)
- ③事務局職員紹介

**【議事1】**

○前回協議項目の確認と今後のスケジュールについて

事務局より説明

**【議事2】**

○市民アンケート結果報告書について

事務局より説明

～質疑～

《委員》

自由意見の中でパトリア（市公民館）の管理費が 6,900 万円という記述が多くみられるが、この経費はメンテナンス費用等による突出なのか。

《事務局》

アンケートと併せて市内 4 ホール施設の維持管理費等の比較表を掲載している。維持管理費については人件費を含むとしており、各施設の担当職員の人件費も含まれている中で、市公民館の管理費には管理係全員の給与経費が含まれていることから突出して多くなったと考えられる。

《委員》

市民の方はこの数値を基準にアンケートに答えられているということで市民に誤解を生んでいるのではないかと懸念されるところである。

**【議事3】**

○文化意識の向上、定着に向けた取り組み

事務局より説明

**【議事4】**

○稼働率・収益を上げるための施策

事務局より説明

～各委員より意見・質問～

《委員》

資料③にある本市の運営方針、これに沿って議論したほうがいいのであるが、先ほどの市民アンケートにはこの運営方針については一言も触れられていない。運営方針はこういうものがあって、というのが最初に来るべき。ここに書かれているように「入場者数や収益などの短期的な指標だけでなく、事業の波及効果や地域への影響、関係文化団体等の水準向上など、長期的な視点を加味した基準による適切な評価を積み上げること」が大事である。

4つの施設に関してもそれぞれコンセプトをしっかりと持つことが大事である。全体のコンセプトはもちろん、各施設のコンセプトも大切である。そしてそれらのコ

ンセプトがしっかり落とし込まれていることが大事である。

例えばデザインの話では、ロゴマークや、施設のデザイン統一、職員の服装などで施設色を出していき、これは厚生会館らしいね、という風になっていくとことでそれぞれ色がついてくる。それら各施設が協力しあい、競争しあうことがで相乗効果で上がっていく。運営方針に沿った行動が必要である。

#### 《委員》

運営方針はとっても重要なことが書いてあってとても良い方針である。これに沿ってどんどん進めて行ってもらいたいと思う。最後の方に「事業をすることが目的にならないよう」と書いてあり、また「事業の波及効果や地域への影響、関係文化団体等の水準向上など・・・適切な評価を積み上げていく」と書かれている。これがとても大切だと思う。運営方針が作られてから数年経過するが、今までの適切な評価の積み重ねやフィードバックの状況はあるのか。

#### 《事務局》

なかなか十分なフィードバックは行われていない。

#### 《委員》

ということは(この運営方針は)飾り物でしかないということである。いろんな課題をまずは職員が解決していこうという気持ちが必要である。さらに4施設でそれぞれの課題を解決していこうというチーム力が大切だと思う。職員がその仕事にどれだけ愛着と誇りをもっているかが大切。それがすべての源であると思うし、それがなければ創意工夫もない。ぜひチームとして育ててほしい。

#### 《委員》

(補足説明) 参考までに、県立劇場では県が設置した外部評価がある。それともう一つ、財団の中で文化事業に対する委員を委嘱して年に2回評価委員会を開いて評価している。

日々現場で仕事をしていく中で何を評価指標にするかは難しいが、総務省が作っている地域創造という財団があり、全国のホールの評価指標モデルを作っており、県立劇場もそれをもとに評価基準を作っている。ゼロから作るのはなかなか大変だが、国が評価モデルをつくっているのをこれを利用してそれぞれの会館にあった指標を作って年度末に評価するとよい。そうしていくとだんだんサイクルが回りだしていく。できなかったことも次年度取り組むなど、「見える化」することに繋がる。そんなに難しいことではないので是非取り組んでほしい。

#### 《委員》

(資料④に対する質問) 年間の稼働率について、文化活動で使ったものだけに絞

った稼働率なのか。また会議室等すべての部屋も含んだ稼働率なのか。

《事務局》

文化事業だけに絞ったものではなく、ホールで行われた全事業の稼働率を出した数値である。

《委員》

(補足説明) ホールの稼働率の出し方は会館によって若干違っている。休館日や保守点検日を除き大体300日ぐらいが利用可能日数となる。だいたい時間区分で午前、午後、夜間と分かれていて、そのうち1区分でも使っていたら1件と数えることもあるし、同一団体や複数団体の利用などでも数え方が会館ごとに違う。(同じ団体が1日使用する場合を1件ととらえる会館や、3区分なので3件とカウントする会館もある。) 県立劇場の場合は1日1区分の利用でも1件、1日3区分全部埋まっても1件とカウントしている。(1日に2件、3件にはならない。)

《委員》

それにしてもかなりハーモニーホールの稼働率が多いように感じる。年間180日ぐらいホールを使っているのか。

《事務局》

そうである。これは3か年の平均を出してあるが、特に2018年と2019年のハーモニーホールの稼働率は80%ぐらいとなっている。

《委員》

では、たとえば選挙活動なども(他の事業も)カウントしているのなら現在の(自主文化事業などの)議論からかけ離れてしまうのではないか。

《委員》

(議事進行の提案) 今日は資料も多く、議論の時間が少ないので、たとえば今日議論しきれなかったことを次回に回すということも可能か。スケジュールの多少の変更も可能か(議論持ち越しも可能か)

《事務局》

スケジュールについては随時見直しながら進めることは可能である。

《委員》

市民がいかにホールを利用するのかに視点を置くならば、自主文化事業をポイント制で共催にしてみたらどうか。市民の嗜好に合わせて費用のかかる事業などを自主文化事業としてやっていくためには、国がやっているように、共催にする基準としてポイント制を導入してはどうか。(ポイントの項目をいくつか決めて、合計ポイントの多いものを共催事業や自主文化事業として選択し、その場合ホールの使用料の減免などを行うなど。) それにより市民から、「もっとこういう事業をしたい」という意見が出て、市民の後押しも得られるのではないか。

現場では自主文化事業を行う場合、チケットを裁くことが最も大変な作業であり、集客率も上がっていない。

市民が望んでいることをやるためには、市民と一緒にやること。前回も言ったが「友の会」組織を作り、市民に参加してもらうことが大切。そしていろいろな人に参加してもらうにはそれぞれの年代に合った催し物を計画し、市民が協働参画できることが必要。そして保育園や幼稚園、小学校など子供も幼いころから教育が大切である。市民を巻き込んだ事業を進めることで盛り上がっていくと思う。

#### 《委員》

(資料③の平成28年3月策定の)運営方針はまるで実態から離れていると感じている。「市民に対する快適なサービス、市民目線でのおもてなしを市民全体に対して施す」という文言については、今のコロナの状況、災害の影響、少子高齢化、財源不足を考えると大変厳しい状況である。

なお報道機関として、箱物行政に対してどうこう言うことはしないが、合併によって八代市が4つのホールを担ってしまった現状がある。そこで必要なのは4つの施設についてある程度行政側が方向性を見据えた運営方針を示すことが必要である。

(今後厚生会館をどうするのか、建物の価値を生かしていくのか、ホールとして今後も活用するのか。またはハーモニーホールにその機能を集約するのか、鏡、千丁はたとえば会議室中心でやっていくのか、など)。さらに今後の予算はどうなるのか、社会保障費が増えていく中で文化に対する予算を確保することができるのかどうか、あるいは教育には払うのか、など。方向性のある程度行政側が示していかないと方向を見誤ることになる。

「友の会」の話はとてもいいと思う。例えばハーモニーホールで9月は八代商工会議所担当月でいろいろ考えてください、予算は100万円付きますよという感じで。10月はJC、11月は高専など、それを定例化していき、さらにはホール周辺の草取りまでその団体に受け持ってもらおうなど。要するに市民がホールにたくさんかかわる機会をたくさん作ることが大切である。市民アンケートでも「ホールを知らない」という人の割合が多い状況であった。

また、防災拠点としてのホール機能もあるかと思う。電源については少なくとも太陽光発電を利用するなど。多面的から28年度の運営方針から新たな令和2年度以降の方針を考えていくべきである。

#### 《委員》

(前の意見に)同意見である。今は文化協会の催し物でお客様が来ない現状であり、そういうことを今後どうするかを考えている。

やはり、存続させていくためには、手放さなければいけない価値観、継続してい

く価値観を見極め、新しい価値観を生みださなければ何事も存続しないと思う。また旧体制は変えていく必要がある。

今回の資料（資料⑤）にあるモデルケースはとても参考になるものであった。福井ハーモニーホールの取り組みなどとても素晴らしいものだった。今いろいろなことが頭打ちになって稼働していない中、教育行政や地元企業との協力の取り組みなどヒントになる事例がたくさん載っていた。市民ひとりひとりを全員満足させることができないが、やはりイベントはお客様が満足を求めてくるので、それに応えるものを選ぶことが必要である。アンケートを取るもいいが、子供たちを対象にした取り組み（コンサートを開く）も良いと思う。

（自治体は）職員の異動が多い。これら資料のモデルケースは職員が長期的に携わり取り組んでいる。より時代に沿ったものを行うべきであり、いくら抽象的なものを語っていても良い取り組みは生まれにくい。もっと実用的なものを考えていくべきである。教育行政が連携して若い者を巻き込んでいくことが必要である。また企業に力を貸していただけるような取り組みも進めるべきである。

#### 《委員》

催し物は年代によってどうしても嗜好が偏ってしまう。またそれぞれの地域の特性や趣向もある。例えばアンケートにもあるように、厚生会館は駐車場不足が問題になっており、車利用が多い場合は駐車場のあるホールを利用する。また、ダンスなどをやっている人や運営者の人脈を利用すれば、本当に見せたい人（ダンサーなど）を呼ぶことができるだろう。また施設ごとに、鏡文化センターは年寄り向け、千丁は（子どもが増えてきているので）親子で楽しめる企画を市公民館でやるなど散歩がてらに行けるような催しを企画する。そうやってある程度ニーズに合ったものを絞っていくことで、資金の少ない中での4館の活動や催しが見えてくるのではないか。

#### 《委員》

今在る4館を考えたとき、地域特性や使用目的を絞ったらどうか。厚生会館が使えると想定して、大ホールはコンサートや演劇、小中学生の鑑賞会などやれると思う。ハーモニーホールは指定管理者になっているが、ホール、多目的室、会議室すべてが上手く稼働しているし立地条件が良いので活用度が高い。千丁、鏡は地域の人の集まる場所としての利用があるし、特に千丁地域は子どもがどんどん増えて活動も盛んである。千丁地域は文化圏が集中しており、若い人たちが家を立て住み始めている。千丁の中央公民館的な使い方をもっと商業的なものでも使えるようにしてほしい。今はとても使いにくい。特徴をとらえることと八代の企業も一緒になって盛り上げるように市民参加型を進めていくべきである。

## 【議題5】

### ○他の自治体の取り組みから見えるもの

事務局より資料説明

～まとめ～

#### 《委員》

本日の資料③の運営方針の2ページ上の方にある（ゴシック体で書かれた）事業は、どちらかという子供や次の世代をどう育成していくか、こういう視点の事業である。一般的にホールの事業というとお客さんを集客するようイベントを考えるようであるが、このような育成型の事業が今後とても大事だと思われる。八代市がこれらをどう位置付けていくか、これらはどうしても収益はあがらないものであるが、将来の子供たちへの投資としてとらえていく視点も大切である。

是非次回に向けて、今回の発言を早めにまとめて委員さんに配っていただきたい。

#### 《委員》

この資料にある他の自治体の取り組みについて、八代市より比較的大きい都市の取り組みであるので、できれば似たような規模でホールが二つ三つあるような自治体の取り組み（今の八代市に近い都市の取り組み）を2、3個探して紹介してもらえるとありがたい。なお、現状、熊本の民放テレビ4局ではこのコロナの状況で、とてつもない状況となっている。なかなか協賛、共催はかなり難しい状況である。しかしこれから文化事業をどうするのかを考えるのはいいチャンス。地域の皆さんが地域のホールを愛して誇りに思って、チームごとに盛り上げていく方策を考えていたら延命措置ができ、新たな利用方法も見えてくるのではないか。

※その後、鏡文化センター現場視察